

学校論の位置

大阪府立大学 桜井 均

以前から疑問に思っていたことがある。学校経営研究と学校論の関係についてだ。試みに、次の選択肢のなかからひとつ選ぶとすれば、どれをお選びになるか。

- イ 学校経営研究は学校論をその一分野として含む。
- ロ 学校経営研究が学校論である。
- ハ 学校経営研究は学校論の一分野である。
- ニ 学校経営研究と学校論はまったく別ものであり、無関係である。
- ホ 学校経営研究と学校論はまったく別ものであるが、ある一定の関係にある。如何であろうか。

この問いはまったく形式的なものである。学校経営研究とは何であり、学校論をどうとらえるかという内容の吟味をぬいては答えられない。上の問いは当然、その吟味を要請する。

学校経営研究を構成している主要な問題群はどのようなものか。傍らに身をおく者の見方だが、次のようになる。

- 1 学校経営という機能・領域は相対的にせよ自立的であるか。他の何か（例えば、教育活動そのもの、公権力の行政作用、等）によって枠組が決められ、主体的に現実を構成することが少なければそれだけ、研究もまたその内部に確実な根拠を失うことになる。これは最初にして最大の問題だ。次のようにも換言できる。学校経営は学校間に他と異なる独自のものを創り出すことがあるのか。学校経営がないと何故いけないか。
- 2 学校経営とは、何の何に対する作用か。例えば、学校における経営か、学校を経営することか。これは「学校経営」という語でどのような経験的事実のまとまりを示すのかという概念問題ではある。しかし、射程ははるかに大きい。1の問題と連動しているのだ。より自立的な機能・領域を求めて「学校経営」の概念内容自体が変容してきたのではないか。
- 3 学校経営が創造しようとし、またそれに基づいて評価される価値は何か。近代化・民主化・合理性・効率性・公共性・アカウンタビリティ・あるいは教育目標等の語で論じられてきた問題領域である。

4 その価値の創造はどのような過程において可能となるか。リーダーシップ・専門職性・意志決定過程・組織イノベーション等の語で論じられてきた技術過程の構成問題である。

5 経営は他の人間活動（例えば、教育）と同様、人間の思考と行動に介入し影響を行使するなんらかの作用をぬいては考えられない。この作用は、その受け手が組織人（あるいは、組織）という規定性をもつとはいえ、どのような場合でも容認されるという訳ではないであろう。学校経営はいかなる条件下で妥当性をもつか。学校経営の正当化問題である。

学校経営研究とは、これらの問題群をめぐって展開される思考であるとしよう。答え方によって様々の学校経営理論が成立する可能性があることになる。しかしそれらはいずれも学校経営研究であることにちがいはない。このような学校経営研究にとって、それでは学校論はどのような位置にあるか。

今日、学校論が求められている。学校経営研究者に限らず教育学研究者あるいは教育に関心をもつ多くの人々にとって、学校論は焦眉の課題である。しかし学校論とは何であるか。

「学校論」という語は未だ安定した使用法をもっていない。例えば、『教育学大辞典』（第一法規、'78）、『学校用語辞典』（ぎょうせい、'85）、『新教育社会学辞典』（東洋館出版、'86）、いずれにも「学校論」なる項目はない。学校論は単一の体系をもっているのでもない。学校に関するあらゆる言説を全て含むとみなすものから、脱学校論だけが学校論だと考えるものまで、様々だ。

そこで結論。学校論は未だ構築すべき課題である。その際、学校経営研究者は学校経営研究との関連を明確にして、つまり、はじめに示した選択肢による問いを意識して、構想すべきである。学校論との関連を自覚することによって、様々の学校経営理論の位置関係も明瞭になる。

提案。私は先の選択肢のうちホを選ぶ。多くの学校経営研究者もホを選ぶのではないか。しかし問題はその先にある。「ある一定の関係」とはどのようなものか。学校の本来的役割の解明を学校論とみなし、これに学校経営研究の基準・根拠を求めるという考えがある。私はむしろ、学校活動（教育や経営の諸々の行為）の位置するコンテキストとコードの解明として、学校論を構想する。（例えば、学校はこれまでも、個としての人間の成長、生物学的進化の過程、近代西欧文明、知識と権力の配分、政治的階級的再生産等のコンテキストのなかにおかれて、そのメカニズムの解読が試みられてきた。）この学校論は、学校経営研究や教育学研究に対しては、それらを相対化し批判するという関係をもつことになる。コンテキストやコードの解明としての学校論自体が今度は、学校経営研究や教育学研究の意味を自覚し方向を見出すためのコンテキストの役目を果たすのである。このような学校論が構築されるべきではないか。